



東映株式会社

2025年3月期
第1四半期説明資料
(2024/4~2024/6)



公式LINE【東映IR News】



公式X【東映公式ニュース】



2025年3月期第1四半期決算（連結）

（百万円）	FY22/1Q	FY23/1Q	FY24/1Q	FY25/1Q	前期比較	
売上高	25,805	34,103	43,063	42,353	▲710	▲1.6%
売上原価	15,122	21,565	28,617	25,127	▲3,489	▲12.2%
販管費	6,947	7,915	8,837	9,180	342	3.9%
営業利益	3,735	4,622	5,608	8,045	2,436	43.4%
経常利益	5,040	7,148	8,489	9,515	1,025	12.1%
親会社に帰属する 四半期純利益	1,850	3,142	4,199	4,039	▲160	▲3.8%

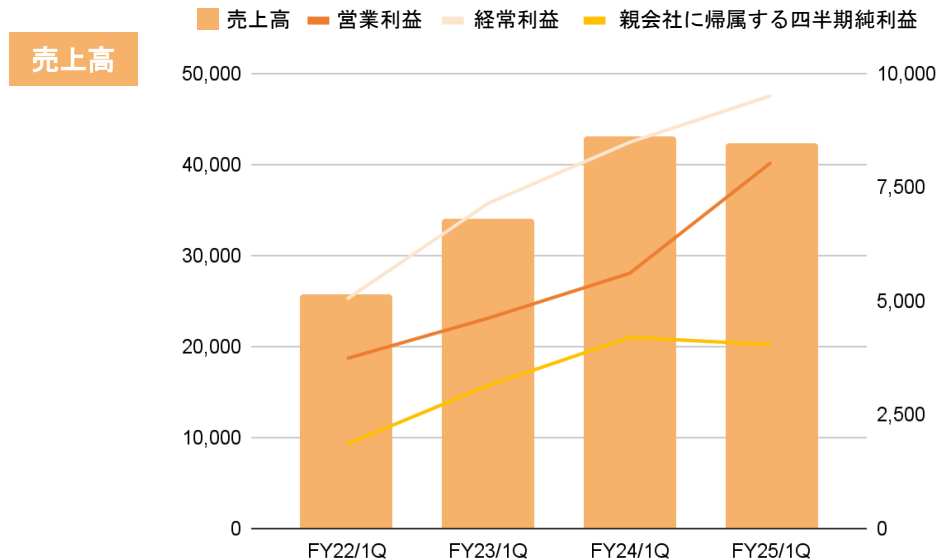
※FY=会計年度：FY25/1Qは2024年4月～2024年6月の期間

※百万円未満を切り捨てて表示しております。

- 売上高 423億5千3百万円（前期比1.6%減）
- 営業利益 80億4千5百万円（前期比43.4%増）
- 経常利益 95億1千5百万円（前期比12.1%増）
- 親会社株主に帰属する当期純利益 40億3千9百万円（前期比3.8%減）

⇒2004年以降の第1四半期比較で

売上高第2位、営業利益第1位、経常利益第1位、当期利益第2位



利益

<分析>

●マルチユース展開（商品販売、版權販売、放送・配信権許諾販売、イベント、海外販売等）が引き続き好調。大ヒット作があった昨年の反動減を支える。

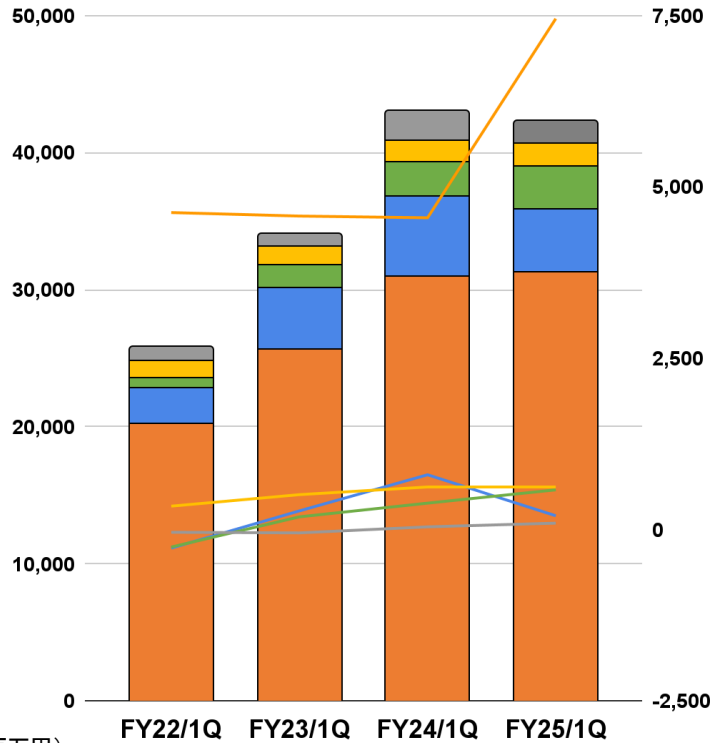
●『帰ってきた あぶない刑事』がヒット

●『劇場版アイドルリッシュセブン LIVE 4bit BEYOND THE PERIOD』再上映、『BELIEVE 日本バスケットを諦めなかった男たち』が好稼働

2025年3月期第1四半期 セグメント別分析 (連結) 【全体】

売上高

利益



セグメント	サブセグメント	FY24/1Q	FY25/1Q	増減	比較増減	セグメント割合
映像関連事業	映画	2,773	1,052	▲1,720	▲62.1%	3.4%
	ドラマ	2,109	1,963	▲146	▲6.9%	6.3%
	コンテンツ	21,165	23,842	2,677	12.6%	76.1%
	その他	4,997	4,468	▲528	▲10.6%	14.3%
	売上高合計	31,045	31,327	282	0.9%	100%
	利益合計	4,550	7,455	2,904	63.8%	
興行関連事業	売上高合計	5,871	4,590	▲1,281	▲21.8%	100%
	利益合計	800	202	▲598	▲74.7%	
催事関連事業	催事	2,093	2,706	612	29.3%	84.3%
	映画村	432	502	69	16.2%	15.7%
	売上高合計	2,526	3,208	682	27.0%	100%
	利益合計	386	580	194	50.3%	
観光不動産関連事業	不動産賃貸	1,081	1,116	34	3.2%	69.8%
	ホテル	419	482	62	15.0%	30.2%
	売上高合計	1,501	1,598	96	6.4%	100%
利益合計	622	622	0	0.1%		
建築内装関連事業	売上高合計	2,118	1,627	▲490	▲23.1%	100%
	利益合計	40	94	54	134.3%	
売上高合計		43,063	42,353	▲710	▲1.6%	
利益調整額		▲791	▲910	▲119		
利益合計		5,608	8,045	2,436	43.4%	

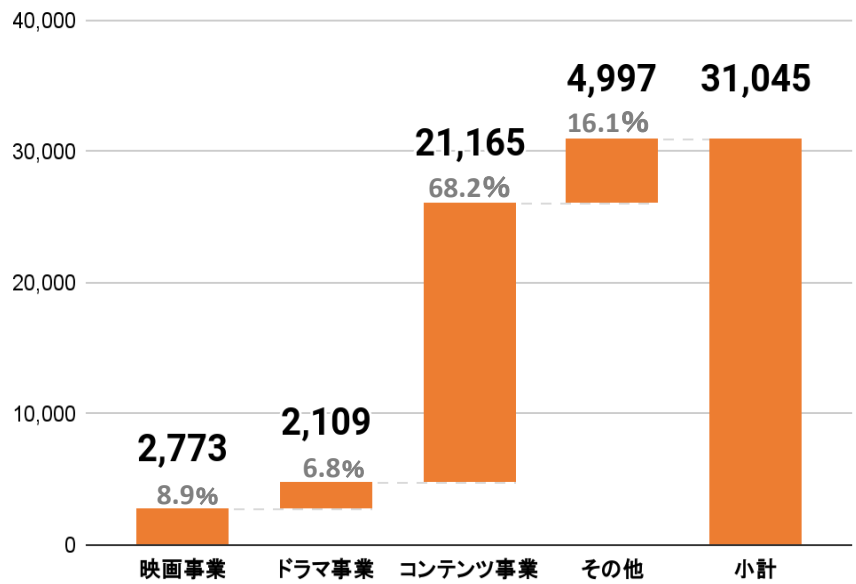
※百万円未満を切り捨てて表示しております。

(百万円)

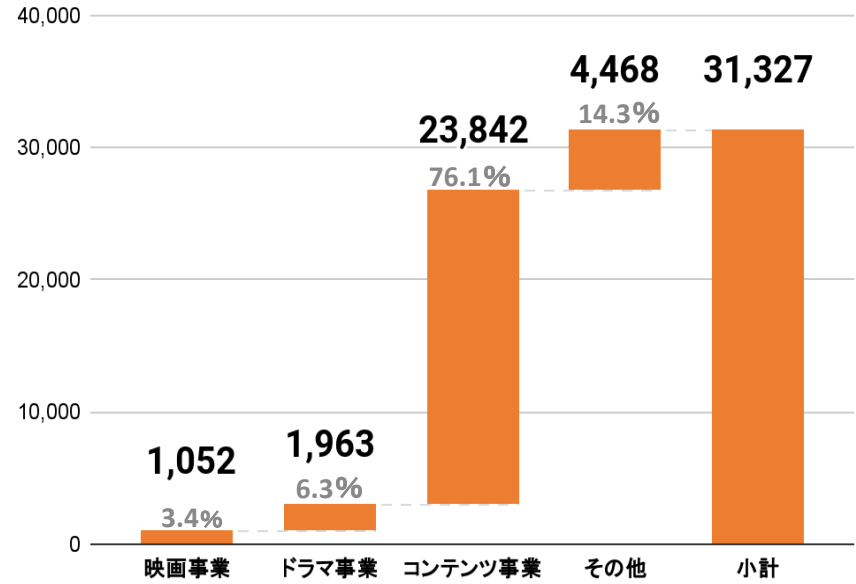
(百万円)		FY24/1Q	FY25/1Q	増減比率	
映像関連事業	売上高	31,045	31,327	282	0.9%
	利益	4,550	7,455	2,904	63.8%

【サブセグメント別売上高】

FY24/1Q



FY25/1Q



●コンテンツ事業 売上高238億4千2百万円 (前期比12.6%増)

国内外のアニメーション作品の配信権販売が引き続き好稼働。実写作品は劇場用映画『法廷遊戯』『キリエのうた』『身代わり忠臣蔵』の国内向け配信権販売が業績に貢献した。また劇場用映画『レジェンド&バタフライ』『シン・仮面ライダー』のテレビ放送権販売の他、『暴れん坊将軍』『遠山の金さん』といった旧作時代劇や新作公開に合わせた『あぶない刑事』の旧作のテレビ放送権販売も好調だった。

●その他事業 売上高44億6千8百万円 (前期比10.6%減)

『ワンピース』『プリキュア』シリーズ等のアニメーション作品の商品販売収入が好調に推移するも、前期大ヒットした『THE FIRST SLAM DUNK』の商品販売収入の反動減により、減収減益

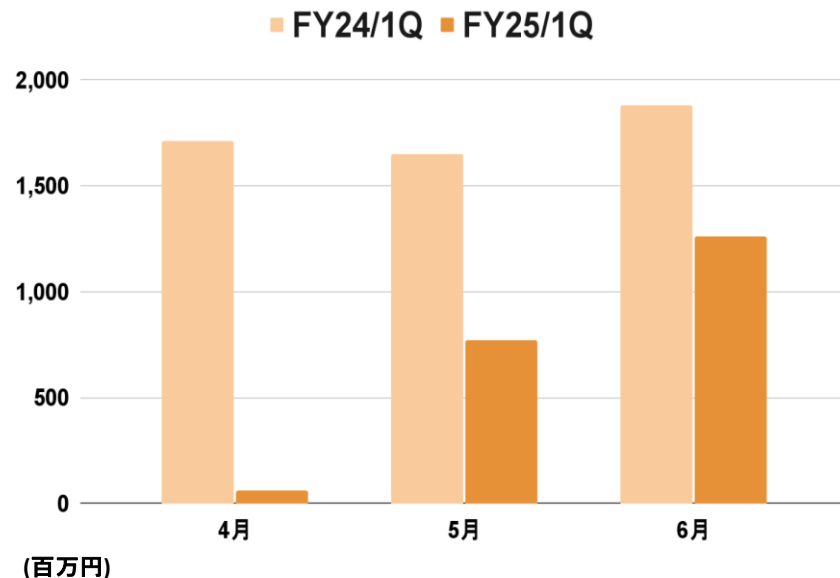
●映画事業 売上高10億5千2百万円 (前期比62.1%減)

大ヒット作が公開された前期の反動減

月間興行収入

(億円)	FY24/1Q	FY25/1Q	前年度比	FY25/1Q 月別の主な稼働作品
4月	17.1	0.6	3.5%	『映画おしりたんていさらば愛しき相棒(おしりよ)』 『鬼太郎 誕生 ゲゲゲの謎』
5月	16.5	7.7	46.6%	『帰ってきた あぶない刑事』 『劇場版 アイドリッシュセブン LIVE 4bit BEYOND THE PERIOD』
6月	18.8	12.6	67.0%	『帰ってきた あぶない刑事』 『BELIEVE 日本バスケを諦めなかった男たち』 『劇場版 アイドリッシュセブン LIVE 4bit BEYOND THE PERIOD』
合計	52.4	20.9	39.9%	

FY25/1Qの主な稼働作品名	公開日	FY25/1Q興収(億円)
『劇場版 アイドリッシュセブン LIVE 4bit BEYOND THE PERIOD』 再上映	5月18～23日/6月8～9日 (期間限定上映)	3.1 (興行全期間：32.7)
『帰ってきた あぶない刑事』	5月24日	14.7
『BELIEVE 日本バスケを諦めなかった男たち』	6月7日	2.0



サブセグメント

【映画】 売上高 10億5千2百万円（前期比62.1%減）

- 提携製作作品等9本を配給
- 『帰ってきた あぶない刑事』がヒット
『劇場版アイドリッシュセブン LIVE 4bit BEYOND THE PERIOD』の再上映、
『BELIEVE 日本バスケットを諦めなかった男たち』が好稼働
- 大ヒット作が公開された前年同期からの反動減



今後の期待作

- 『THE FIRST SLAM DUNK』の復活上映
2024年8月13日（火）公開
- 『わんだふるぷりきゅあ! ざ・むーびー』
2024年9月13日（金）公開
- 『十一人の賊軍』
2024年11月1日（金）公開
- 『【推しの子】』
2024年11月28日（木）ドラマシリーズ：Amazon Prime Videoにて世界独占配信
2024年12月20日（金）映画：劇場公開
- 『室町無頼』
2025年1月17日（金）公開

サブセグメント

【ドラマ】売上高 19億6千3百万円（前期比6.9%減）

- 商品化権営業において「仮面ライダー50周年」による盛り上がりがあった前年同期からの反動減

2024年4月～6月放送作品

- 2023年9月3日～ 『仮面ライダーガッチャード』（テレビ朝日系）
- 2024年3月3日～ 『爆上戦隊ブンブンジャー』（テレビ朝日系）
- 2024年4月3日～ 『特捜9 Season7』（テレビ朝日系）
- 2024年4月24日～ 『君とゆきて咲く～新選組青春録～』（テレビ朝日系）



キャラクターの商品化権営業

『爆上戦隊ブンブンジャー』『仮面ライダーガッチャード』玩具等をはじめとしたライセンス

「仮面ライダーガッチャード×コトダマンコラボ」や「RIDE KAMENS」などアプリゲームへのライセンス

【狙い】

- 子どもから大人まで、ファンとの接点を拡大しIPを消費者に浸透させる
- これまで特撮と接点のなかった層までを顧客に取り込む



「RIDE KAMENS」

「仮面ライダーガッチャード×コトダマンコラボ」詳細

<https://kotodaman.jp/info/detail/078937k2wbmw45bUR7.html>

TOPIC 1次利用～2次利用まで 一貫した企画体制

『君とゆきて咲く～新選組青春録～』

テレビ放送の他、イベントや商品販売、海外展開までの一貫したビジネススキームをテレビ朝日と共同で計画し、作品の収益力の最大化を狙う。

- テレビ朝日系で放送開始（4月24日～）
- 六本木ヒルズ 夏祭り SUMMER STATIONでイベントを開催（7月24日）
- EX THEATER ROPPONGIでファンミーティングを開催（8月31日、9月1日）（予定）
- イベントでの商品販売も実施
- アジアを中心とした放送権、配信権の販売

7月24日
テレ朝夏祭りでのイベント

サブセグメント

【コンテンツ】 売上高 238億4千2百万円（前期比12.6%増）

- 国内 新作旧作を含む劇場用映画・テレビ映画等の地上波・BS・CS放映権販売、配信権販売及びビデオ化権等の販売、また商品化権販売を行った。
- 海外 劇場映画・テレビ映画等の海外販売、テレビ映画の商品化権販売を行った。
- パッケージ事業を東映ビデオ株式会社に移管。経営資源を集約し、経営効率の向上を図った。

【国内配信権】

- ・『鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎』『THE FIRST SLAM DUNK』『法廷遊戯』『キリエのうた』『身代わり忠臣蔵』が業績に貢献
- ・『ワンピース』劇場版シリーズ（14本）が引き続き好調
- ・「東映特撮ファンクラブ」「東映特撮YouTube」等オウンドメディアの売上高が伸長
- ・『七つの国』（ディズニープラス「スター」で独占配信）が売上に貢献

【国内放送権】

- ・『レジェンド&バタフライ』『シン・仮面ライダー』等の新作劇場用映画が好調
- ・『暴れん坊将軍』『遠山の金さん』など旧作時代劇テレビ映画の他、新作映画公開に合わせた『あぶない刑事』旧作テレビ映画が好稼働

【国内アニメ 版權】

- ・『ドラゴンボール』シリーズの国内ゲーム化権が好調

【国内Blu-ray/DVD】

- ・2月28日発売『THE FIRST SLAM DUNK』が引き続きECサイトで好調
- ・「王様様隊キングオージャーBlu-rayCollection」最終巻が好調で前作シリーズを大幅に凌ぐ

【海外】

- ・特撮：『動物戦隊ジュウオウジャー』他『スーパー戦隊シリーズ』のアジア向け商品化権が好調
- ・アニメ：『ワンピース』の海外配信権販売、『ワンピース』、『ドラゴンボール』シリーズ、『デジモン』シリーズ商品化権が好調

【その他】 売上高 44億6千8百万円（前期比10.6%減）

- ・『ワンピース』『プリキュア』シリーズ等のアニメーション作品の商品販売収入が好調に推移するも、前期大ヒットした『THE FIRST SLAM DUNK』の商品販売の反動減により、減収減益。

TOPIC

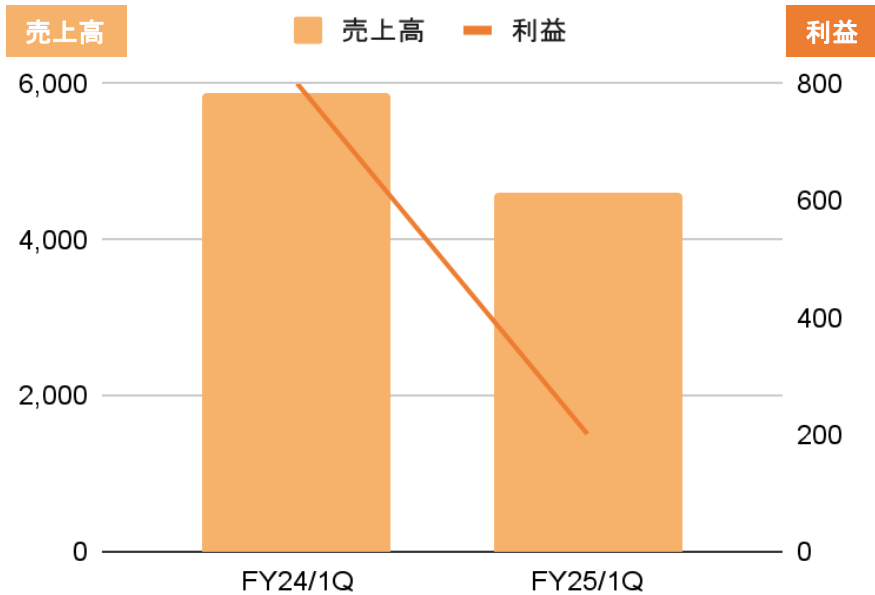
コンテンツ東京 出展

2024年7月3日（水）～5日（金）、東京ビッグサイトにて行われた、日本最大のコンテンツビジネス総合展「コンテンツ東京」における展示会「ライセンシングジャパン」に出展した。

『仁義なき戦い』などの任侠シリーズから最新の仮面ライダー・スーパー戦隊シリーズ、また東映のロゴマークや配給マークをデザインした商品も展示。国内外の多くのお客様が足を止め、東映コンテンツを使用した商品開発やタイアップのための商談を行った。



(百万円)		FY24/1Q	FY25/1Q	増減比率	
興行関連事業	売上高	5,871	4,590	▲1,281	▲21.8%
	利益	800	202	▲598	▲74.7%



(百万円)

- 株式会社ティ・ジョイによるシネマコンプレックスの運営が中心
- 22サイト220スクリーン体制（東映絨直営館2スクリーン含む）で展開
- 直営劇場：『帰ってきた あぶない刑事』がヒット。『BELIEVE 日本バスケを諦めなかった男たち』『あんのこと』が好稼働
- ティ・ジョイ：『名探偵コナン 100万ドルの五稜星』『変な家』等の大ヒットが業績を牽引したものの、『ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー』『名探偵コナン 黒鉄の魚影』等の大ヒット作に恵まれた前年同期比で減収減益となった。またコスト管理の強化により販管費の増加を抑制した。

TOPIC

【株式会社ティ・ジョイ】

- ラジフォーマットの拡充

6月に、T・ジョイ京都へ日本初となる「ScreenX with Dolby Atmos®」を導入し周辺劇場との差別化を図る。

今後は全国の劇場へ順次導入予定。

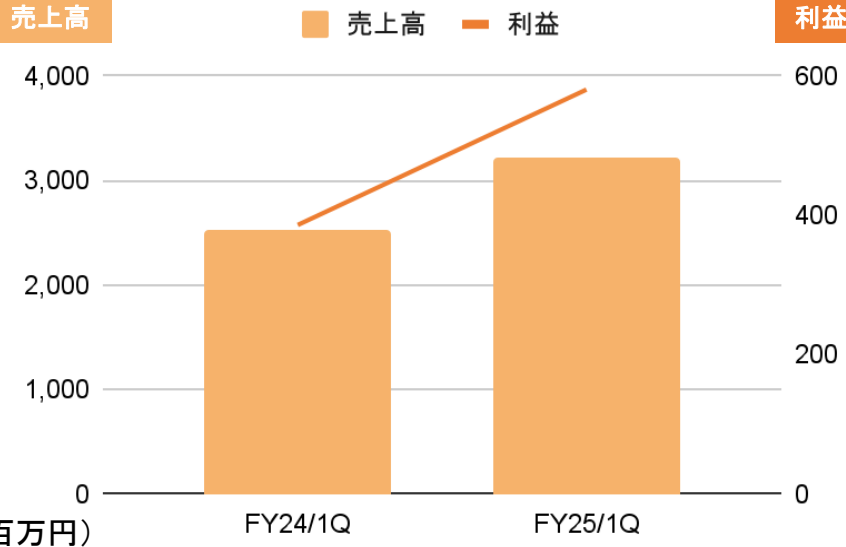
- コンセッション（飲食部門）

4月、T・ジョイ長岡のコンセッションにセルフオーダーレジとモバイルオーダーを導入。

お客様の待ち時間を短縮し利便性の向上と運営の効率化を図る。

今後は全国の劇場へ順次導入予定。

(百万円)		FY24/1Q	FY25/1Q	増減比率	
催事関連事業	売上高	2,526	3,208	682	27.0%
	利益	386	580	194	50.3%



サブセグメント【催事】

売上高 27億6百万円 (前期比29.3%増)

●イベント事業

『王様戦隊キングオージャー ファイナルライブツアー2024』をはじめとする人気キャラクターショーの各種催事が好調に稼働

●商品事業

映画関連商品及び催事関連商品の販売並びにオンラインストアでの販売が堅調に推移

TOPIC SNSを介するタッチポイント増による効果

オンラインストアにおける『爆上戦隊ブンブンジャー』の関連商品が前作『王様戦隊キングオージャー』と**同期比較において145%増**



SNSによるタッチポイントを強化

YouTubeチャンネル (2024年2月1日配信開始)

「ブンブンジャーちゃんねる【スーパー戦隊シリーズ公式】」

「せんたいライダーKidsチャンネル」

YouTubeを介したタッチポイントの増加が影響していると分析

夏のイベントやシアターGロッソ (東京ドームシティ) での商品販売の高稼働を期待



シアターGロッソでのブンブンジャーショーの様子

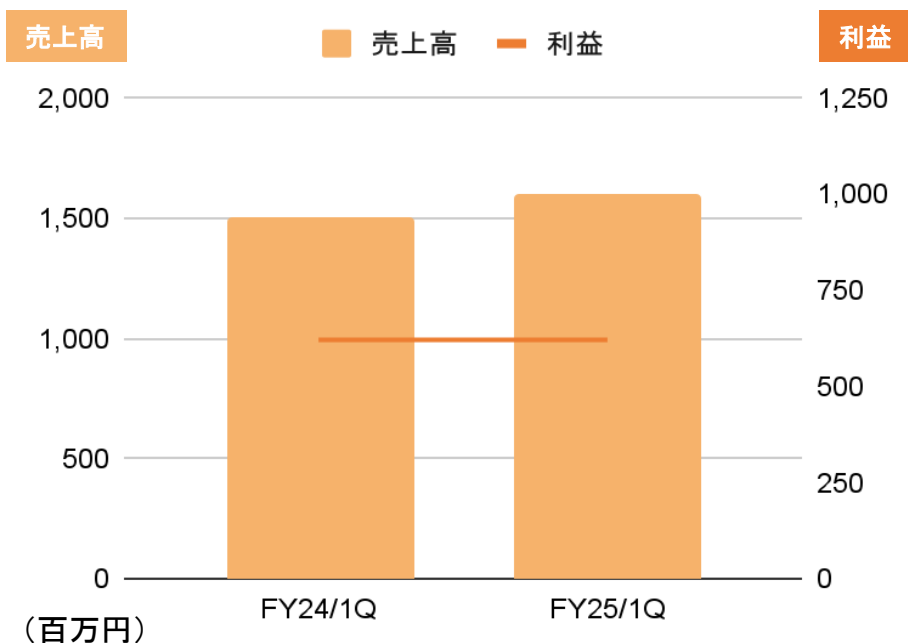
サブセグメント【東映太秦映画村】

売上高 5億2百万円 (前期比 16.2%増)

●東映太秦映画村

リニューアル工事により営業エリアの一部を制限しているものの、インバウンド需要や団体需要が業績を牽引。また夜間 (20時まで) の営業日増加が、縮小した面積の売上利益を補填している。

（百万円）		FY24/1Q	FY25/1Q	増減比率	
観光不動産事業	売上高	1,501	1,598	96	6.4%
	利益	622	622	0	0.1%



サブセグメント

【不動産賃貸】 売上高 11億1千6百万円（前期比3.2%増）

・全国に所有する「東映プラザ（渋谷・福岡・広島・仙台）」「新宿三丁目イーストビル」等の複合商業施設、マンション等の賃貸運営が堅調に推移

・2025年夏に本社移転後、現在の東映会館は解体し、商業賃貸施設への再開発を予定

サブセグメント

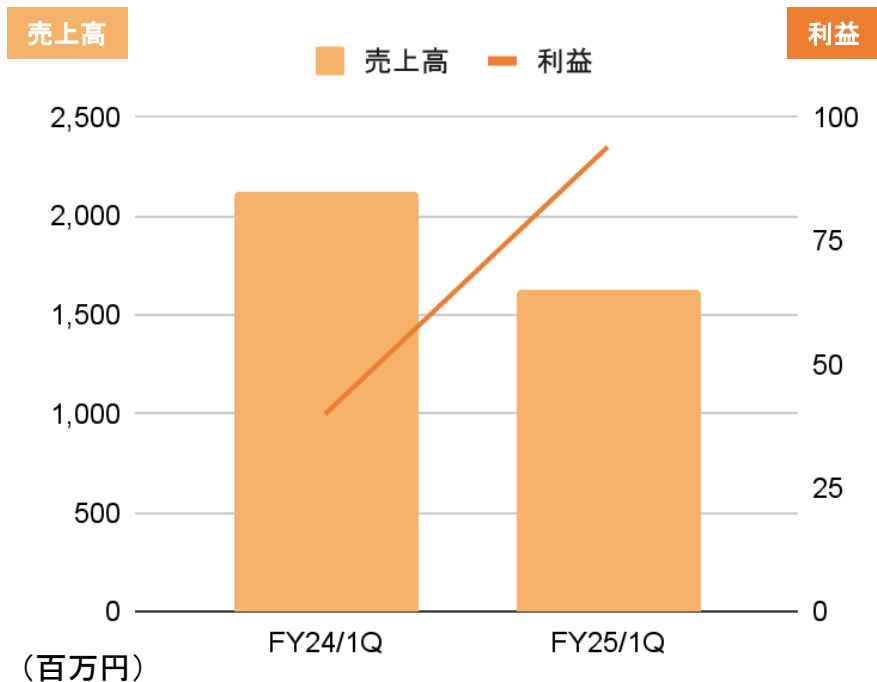
【ホテル】 売上高 4億8千2百万円（前期比15.0%増）

・インバウンド需要、客室需要、宴会需要、団体需要の増加により売上は好調な一方、光熱費等の高騰が原価を押し上げる

・客室単価の値上げや徹底したコスト管理で収益を確保

2025年3月期第1四半期 セグメント別分析 (連結) 【建築内装事業】

(百万円)		FY24/1Q	FY25/1Q	増減比率	
建築内装事業	売上高	2,118	1,627	▲490	▲23.1%
	利益	40	94	54	134.3%



- ・株式会社東映建工がシネマコンプレックスの新規工事や改装工事をはじめ老健施設や楽器店、飲食店等の商業施設の内装工事を受注

- ・映像関連施設では、新築シネマコンプレックスの他、「ScreenX」などハイスペックスクリーンの工事を受注

- ・建設資材・エネルギー価格の高止まりや労務費の上昇等による影響があるものの確実な見積りと適正な工期の設定より利益を確保

參考資料

東映グループのビジネスモデル

① 自ら企画製作し、

多様で魅力的な作品群を企画

- ・ 劇場映画 4,400作品以上
- ・ テレビ映画 39,000話以上
- ・ 配信映画 600話以上

オリジナル

原作もの



映像製作インフラ

- ・ 撮影からポストプロダクションまでのワンストップ体制

撮影



映像研究



ポストプロ



アニメ



② マルチユース展開

- ・ 劇場からテレビ、ネット配信までマルチチャンネルをカバー

配給

興行

テレビ放送

配信

DVD Blu-ray

商品化

書籍化

ゲーム化

イベント化

舞台化

海外展開



ティ・ジョイ



東映
オンラインストア



東映特撮
YouTube Official

③ 作品をフランチャイズ化することで接点を増加

IPが生み出す収益の最大化を目指す

収益 最大化

IP認知度向上
ファン化等

利益の積重ね

企画

製作

マルチ
ユース

利益の積重ね

企画

製作

マルチ
ユース

IP

接点
増加

主な取り組み

- 映像事業強化
 - ・ YouTubeチャンネル「仮面ライダー公式チャンネル」開設
 - ・ 「シネマDXプロジェクト」発表
- 海外展開
 - ・ 「第28回プチョン国際ファンタスティック映画祭」
併設企画マーケット「NAFF It Project」でTAICCA AWARDを受賞
- サステナビリティ
 - ・ 名探偵 金田一耕助・片岡千恵蔵主演『悪魔が来りて笛を吹く』（1954年）
デジタル修復～70年ぶりの復刻披露上映
 - ・ 「ボトルtoボトル資源循環型リサイクル」を開始

2024年8月1日
YouTubeチャンネル
「仮面ライダー公式チャンネル」開設

動く仮面ライダー図鑑と題して、多くのキャラクターを紹介する「仮面ライダー公式チャンネル」を開設しました。

50年以上続く仮面ライダーシリーズはこれまでに44タイトル(※)が製作され400体以上の仮面ライダーが活躍しますが、本チャンネルでは、様々な仮面ライダーが活躍するシーンをフォームごとにピックアップし紹介します。

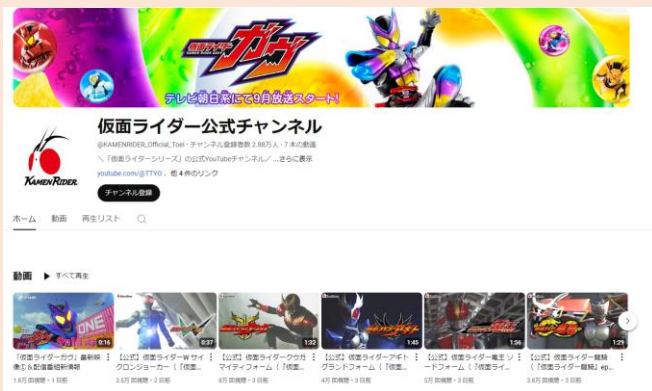
旧作だけでなく、9月よりスタートする新番組『仮面ライダーガヴ』の新たな映像も今後配信予定です。

本チャンネルを通して、ファンとの接点を増やしていきます。

※テレビシリーズの他、映画・配信オリジナルも含む

チャンネルはこちら↓

http://www.youtube.com/@KAMENRIDER_Official_Toei



2024年7月31日
「シネマDXプロジェクト」発表

当社は、松竹株式会社（以下「松竹」）、株式会社フラッグ（以下「フラッグ」）と共に、三社共同で顧客データを活用したデジタル広告プラットフォームを開発し、映画マーケティングのDXを推進する「シネマDXプロジェクト（CDX）」を始動することを、7月31日に発表いたしました。

配給会社と映画館との間で情報連携することで、顧客データを活用したデジタル広告プラットフォームの開発・運用を行います。データを活用し観客の鑑賞動向を正確に把握することで、パーソナライズされた顧客サービスを提供し映画館への来場者の増加を狙うことが可能となります。さらにフラッグのデジタルマーケティング分野でのノウハウを生かし、三社の映画宣伝に従事する人材のデジタルリテラシーの向上を図ってまいります。

なおCDX推進に伴い、当社と松竹はフラッグの第三者割当増資を引き受け、株式の約7%ずつを保有する資本業務提携を締結いたしました。

三社の力を集結してより効率的で効果的な映画のマーケティングを行い、映画をはじめとする日本のエンターテインメント業界の活性化を目指します。



中長期ビジョンTOEI NEW WAVE 2033
重点施策 ①映像事業収益の最大化

当社は2022年に発表した中長期ビジョン「TOEI NEW WAVE 2033」に基づき、グローバル展開へのチャレンジをしています。その実現を目指し今春、映像産業振興機構（V I P O）の協力のもと、当社独自のプロデューサー育成プロジェクトを実施いたしました。

アジア最大級のジャンル映画祭「第28回プチョン国際ファンタスティック映画祭」の企画マーケット「NAFF It Project」へ参加することを目標にトレーニングを行い、当社の高橋直也プロデューサーの映画企画『BAIT』が日本からの企画として「NAFF It Project」の書類選考に合格。現地で行ったピッチングが評価され、この度TAICCA AWARDを受賞しました。

国際共同製作に向けた
プロデューサートレーニング

2024年2月～4月

「第28回プチョン国際ファンタスティック映画祭」
併設企画マーケット「NAFF It Project」で
TAICCA AWARDを受賞

2024年7月

製作に向けた活動

現在



左からJerry Zhang（ジェリー・ザン）プロデューサー、
Alice YUAN（アリス・ユアン）、Stepanie L（ステファニー・リー）、
高橋直也プロデューサー

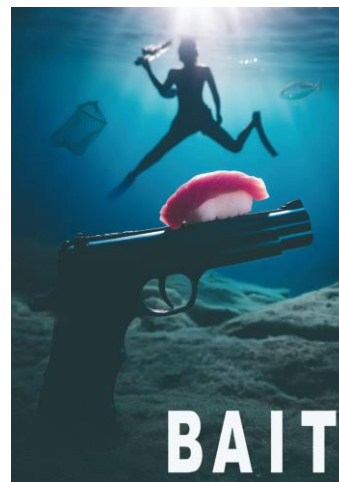
▲「NAFF It Project」とは

世界から招待された出資者や映画祭プログラマーのほか、プラットフォーム、配給会社、プロデューサーなどに向けた国際共同製作および資金調達のための企画ピッチングプログラムです。

今年は日本、韓国、香港、台湾、シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナム、パングラディッシュ、ネパール、などアジア各国をはじめアメリカやカナダ、オランダ、ベルギー、イタリアから合作含む17カ国23組のピッチングが行われ、日本からは3組が参加しました。

▲「TAICCA AWARD」とは

台湾のコンテンツ産業のグローバル展開を促進する独立行政法人・TAICCA（台湾クリエイティブ・コンテンツ・エイジェンシー）が提供する賞です。

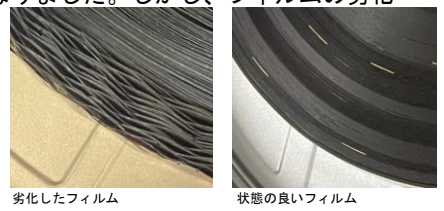


『BAIT』作品概要

東京の港区でグルメインフルエンサーとして活躍していた女性が、とあるきっかけで北海道のヤクザが支配する密漁グループに巻き込まれる。そこで、彼女は自身の隠れた潜水の才能を開花させ、ヤクザの社会で成り上がっていくクライムサスペンス。

名探偵 金田一耕助・片岡千恵蔵主演
『悪魔が来りて笛を吹く』（1954年）デジタル修復
～70年ぶりの復刻披露上映～

戦前から戦後にかけて活躍した時代劇スター片岡千恵蔵が出演する名画『悪魔が来りて笛を吹く』（1954年）。長らくロストフィルムになっていましたが、この度発見されファンの中で大きなニュースとなりました。しかし、フィルムの劣化が激しく、上映は難しい状態でした。



当社はこの貴重なフィルムをデジタル技術で修復し後世に残すだけでなく、蘇った名作を劇場で上映したいと考えました。また作業にあたり、ファンの方々も名作を大スクリーンに復元する本プロジェクトに参加できるように、クラウドファンディングを実施しました。

その結果、2024年6月3日～7月30日の間に、パートナー542人という多くの方がご参加くださり6,325,707円（目標達成率323%）ものご支援をいただきました。



デジタル修復は当社グループの東映ラボ・テック株式会社が行い、最新の機器を用いて専門の技術者が作業いたしました。今後も貴重な映像文化を後世に伝えるため、様々な取り組みを行ってまいります。

「ボトルtoボトル資源循環型リサイクル」を開始

当社は株式会社伊藤園と、資源循環の分野において各施設や事務所で回収した使用済みペットボトルの水平リサイクルを行う「ボトルtoボトル資源循環型リサイクル」活動を協同で実施する合意書を締結し、本年8月より取り組みを開始いたしました。



本取り組みでは、当社で回収された使用済みペットボトルを再生事業者が再原料化し、伊藤園の販売する飲料用ペットボトル容器として使用していきます。2024年8月以降、東映東京撮影所、東映京都撮影所より開始し、順次広げていきます。廃棄物の減量および資源の有効利用を促進するとともに、国内資源循環の実現に貢献してまいります。

中長期ビジョンTOEI NEW WAVE 2033
重点施策 ④持続的なチャレンジと成長を支える経営基盤強化
③サステナビリティへの取り組み

中長期VISION「TOEI NEW WAVE 2033」全体像

To the World , To the Future

－「ものがたり」で世界と未来を彩る会社へ－

経営ビジョン2033

2026年で目指す姿

実写・アニメともにグローバルコンテンツの創造発信基盤を確立する

東映グループの強み

企画製作力

：

マルチユース展開

成長戦略

実写、アニメ映像事業を強化・拡大し、グローバル展開を加速する

重点施策

1 映像事業収益の最大化

1. 企画製作力の強化
2. コンテンツのマルチユース促進
3. IPライフサイクルの長期化

2 グローバル展開へのチャレンジ

1. グローバルメジャーと共同開発・世界展開
2. 現地企業とローカライズオリジナル作品の共同制作

3 映像事業強化のための人的投資の拡大

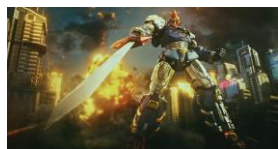
4 持続的なチャレンジと成長を支える経営基盤強化

- ① 事業基盤強化に向けた投資戦略
- ② コーポレートガバナンスの強化
- ③ サステナビリティへの取り組み
- ④ 資本・財務戦略

映像作品・催事 ラインナップ

【映画】

- 2024年8月13日 『THE FIRST SLAM DUNK』の復活上映
- 2024年9月13日 『わんだふるぷりきゅあ! ざ・むーびー!』
- 2024年10月18日 『ポルテスVレガシー』
- 2024年11月1日 『十一人の賊軍』
- 2025年1月17日 『室町無頼』
- 2025年3月7日 『35年目のラブレター』
- 2025年春 『花まんま』
- 2025年 『宝島』



【配信ドラマ・映画】

- 2024年 11月28日 21:00
『ドラマ【推しの子】』Prime Videoにて配信スタート
- 2024年12月20日
『映画【推しの子】』全国公開



【テレビ】

- 2024年3月3日～ 『爆上戦隊ブンブンジャー』（テレビ朝日系）
- 2024年4月24日～（第1期）
7月17日～（第2期）『君とゆきて咲く～新選組青春録～』（テレビ朝日系）
- 2024年7月3日～ 『科捜研の女 Season24』（テレビ朝日系）
- 2024年9月～ 『仮面ライダーガウ』（テレビ朝日系）



【アニメーション】

- 2024年10月～
『ドラゴンボールDAIMA』（フジテレビ）
- 2025年1月11日～
『魔法つかいプリキュア!!～MIRAI DAYS～』（ABC・テレビ朝日系列）



作品・催事 ラインナップ

【配信】

- 2024年7月4日 『七夕の国』（段階的に配信。最終話第10話は8月8日）
- 2024年8月4日 『忍者戦隊カクレンジャー 第三部・中年奮闘編』
- 2024年9月29日 『仮面ライダーアウトサイダーズ e p. 6 ラブ&ピースと次元の救世主』
- 2024年11月10日 『王様戦隊キングオージャー IN SPACE』

【催事】

- 『QuizKnockと巡る 江戸東京博物館展』 2024年7月～ 愛知、静岡 ほか全国巡回予定
- 『百聞は実験にしかず！学研「科学と学習」ふろく展』 2024年7月～ 東京
- 『出版160周年記念 不思議の国のアリス展』 2024年8月～ 愛知
- 『ONE PIECE EMOTION』 2024年8月～ 東京、熊本 ほか全国巡回予定
- 『原作45周年記念「キン肉マン」愛と絆の原画展』 2024年8月～ 東京、大阪 ほか全国巡回予定
- 『おジャ魔女どれみ25周年メモリアル展』 2024年8月～ 東京、大阪、愛知 ほか全国巡回予定
- 『アニメ25周年記念 デジモンアドベンチャー展』 2024年8月～ 東京、大阪

【ショー・舞台】

- 『仮面ライダー×スーパー戦隊 Wヒーロー夏祭り 2024』 2024年8月～ 東京
- 『わんだふるぷりきゅあ！ いっしょにあそぼ♪わんだふるワールド』 2024年8月～ 東京
- 『仮面ライダースーパーライブ2024』 2024年8月～ 新潟、香川、奈良、神奈川 ほか全国巡回予定
- 東映ムビステ 舞台『邪魚隊/ジャッコタイ』 2024年8月～ 東京、大阪、愛知、石川
- 『仮面ライダーガッチャード ファイナルステージ』 2024年9月～ 大阪、福岡、愛知、東京

【商品】

- 仮面ライダーストアTOKYO/OSAKA



本資料について

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれていますが、実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではありませんのでご了承下さい。

また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問合せ
東映株式会社 経営戦略部広報室

TEL:03-3535-7564 MAIL : keisen_koho@toei.co.jp

担当：多田（オオタ）内藤 奥本 加藤

©2024「十一人の賊軍」製作委員会 ©2024「帰ってきたあぶない刑事」製作委員会 ©BNOI/劇場版アイナナ製作委員会 ©2024「BELIEVE」製作委員会 ©FIBA ©日本バスケットボール協会 ©I.T.PLANNING,INC. ©2022 THE FIRST SLAM DUNK Film Partners ©2024 わんだふるぷりきゅあ!ざ・むーびー!製作委員会 ©赤坂アカ×横槍メンゴ/集英社・2024映画【推しの子】製作委員会 ©2025「室町無頼」製作委員会 ©テレビ朝日・東映AG・東映 ©テレビ朝日・東映 ©石森プロ・東映©BANDAI ©手塚プロダクション/テレビ朝日・東映 ©2023「THE LEGEND & BUTTERFLY」製作委員会 ©石森プロ・東映/2023「シン・仮面ライダー」製作委員会 ©尾田栄一郎/2022「ワンピース」製作委員会 ©石森プロ・テレビ朝日・ADKEM・東映 ©東映 ©TOEI Co. Ltd, Telesuccess All Rights Reserved ©2025「35年目のラブレター」製作委員会 ©2025「花まんま」製作委員会 ©2025「宝島」製作委員会 ©バード・スタジオ/集英社・東映アニメーション ©ABC-A・東映アニメーション ©2024 岩明均/小学館/東映 ©東映特撮ファンクラブ ©Gakken ©Macmillan Publishers International Limited.THE MACMILLAN ALICE™ ©Eiichiro Oda/Shueisha,Toei Animation ©ゆでたまご ©本郷あきよし・東映アニメーション ©本郷あきよし・東映アニメーション・テレビ朝日・電通©本郷あきよし・アブモンプロジェクト・テレビ東京©本郷あきよし・フジテレビ・東映アニメーション©BANDAI ©本郷あきよし・東映アニメーション・東映 ©東映アニメーション ©石森プロ・テレビ朝日・ADKEM・東映AG・東映 ©2024 toei-movie-st ©2023石森プロ・テレビ朝日・ADKEM・東映